

**第36回**  
**福島県児童・生徒木工工作コンクール**  
**結果報告**

**福島県木材青壮年協会**

## 開催の趣旨

### 目的

地球温暖化が問題となり環境保護が叫ばれている今日、この木工工作コンクールを通じて未来を担う子どもたちに再生可能な循環型資源としての木材をより身近に感じてもらい、いろいろな種類の木材に触れ、香り・色・形・肌触りから木材の持つ強さ、やさしさ、美しさという良さを伝えたい。また、実際に自分で切ったり、削ったり、組み合わせながら創造を形にすることの喜び、感動する経験から将来は木材を使用した住宅・家具などに興味を寄せてもらい木材の利用推進につなげていきたい。

### 主催等

- ◇ 主催 ◇ 福島県木材青壮年協会・福島民報社・福島県木材協同組合連合会
- ◇ 後援 ◇ 福島県・福島県教育委員会・関東森林管理局・(財)福島県林業会館  
・NHK福島放送局
- ◇ 協賛 ◇ ラジオ福島・福島テレビ

### 応募資格

- (1) 福島県内の小中学校の児童・生徒であること。
- (2) 木材及び林産物を主材料として利用・加工した創作品で、作品の大きさは一辺の大きさが75 cmを越えないもの。

### 審査基準

- |                            | 配点 (100点) |
|----------------------------|-----------|
| (1) 子どもの頭で考え、子どもの手で作ったもの。  | 30点       |
| (2) 木の持ち味を活かし、独創性に優れていること。 | 30点       |
| (3) 機能、デザインが優秀であること。       | 20点       |
| (4) 工作技術が優秀であること。          | 20点       |

# 経過説明

## 審査内容

1. 出展作品数 総数938点(34校)  
さらに、各支部の予選審査により28点が最終審査に出展された。
2. 審査会 平成23年10月21日郡山市において次の審査委員により「入賞者名簿」のとおり各賞が決定された。

### ◇審査委員長◇

福島大学人間発達文化学類教授

(敬称略)

新井 浩



### ◇審査委員◇

福島県林業研究センター所長  
関東森林管理局福島森林管理署長  
福島県教育長学習指導課指導主事  
福島民報郡山本社総括本部長  
ラジオ福島郡山総支次長  
福島県木材協同組合連合会副会長  
福島県木材青壮年協副会長

大竹 清美  
中山 浩次  
五十嵐幸男  
中尾 富安  
矢吹 幸  
小松 昭人  
飯部 慎一



## その他

3. 全国コンクールへの参加  
上位入賞作品については、平成24年3月上旬開催の全国コンクールに出展し、更  
さらに入賞した作品については、5月26日三重県で開催される日本木材青壮年団体  
連合会全国会員大会会場において表彰される。
4. 作品の展示及び展示期間  
平成23年10月22日(土)  
於：福島県林業研究センター(「第36回福島県林業祭」会場)

# 入賞者名簿

(敬称略)

## 最優秀賞

福島県知事賞 1部

大むかしの海

福島県知事賞 2部

復興!!アクアマリンふくしま

いわき市立平第五小学校 2年

小松 渚 紗

いわき市立小名浜東小学校 5年

鈴木 嘉英人

## 優秀賞

福島県教育委員会教育長賞 1部

鳥たちが集うぼくの家

福島県教育委員会教育長賞 2部

トリケラトプス

関東森林管理局長賞

海を泳ぐいるか

福島民報社長賞

学習ザメ

(財)福島県林業会館理事長賞

小とりのすナンバー1

福島県木材協同組合連合会長賞

おおかみ

NHK福島放送局長賞

ティラノサウルス

〃

ラジオ福島社長賞

親子の絆

福島テレビ社長賞

シーラカンス

福島県木材青壮年協会長賞 1部

フタバスズキリュウ

福島県木材青壮年協会長賞 2部

ツリーハウス

いわき市立平第五小学校 4年

新妻 広 翔

いわき市立中央台東小学校 5年

斎藤 謙 太

いわき市立小名浜東小学校 4年

池田 萌 花

福島市立瀬上小学校 5年

白濱 光

福島市立野田小学校 2

紺野 かすみ

いわき市立小名浜東小学校 4年

池田 彩 那

いわき市立湯本第一小学校 6年

大和田 晟 雅

いわき市立湯本第一小学校 3年

大和田 星 恋

いわき市立小名浜西小学校 6年

三瓶 未 久

福島市立野田小学校 5年

桑折 拓 斗

福島市立野田小学校 3年

桑折 拓 斗

いわき市立泉北小学校 6年

岡部 泰 陽

## 入選

福島県木材青壮年協会長賞

もりのどうぶつえん

木のギラフェノキリクガタ

りゅう

おちばの家

ピアノ

トリケラトプス

海ぞく船

きれいな日本を取り戻そう

〃

福島市立野田小学校 1年

高橋 都 哉

福島市立野田小学校 4年

菅谷 駿

福島市立瀬上小学校 3年

山田 直 央

福島市立庭坂小学校 2年

小林 穂 波

いわき市立上遠野小学校 3年

栗須 日 菜

いわき市立長倉小学校 3年

佐藤 琉 凱

いわき市立勿来第一小学校 5年

小松 寛

いわき市立平第四小学校 6年

相田 陽 平

いわき市立平第四小学校 5年

相田 明 莉

## 講 評

第36回福島県児童・生徒木工工作コンクール審査委員長  
福島大学人間発達文化学類教授 新 井 浩

第36回福島県児童生徒木工工作コンクールの審査は10月21日、福島県林業研究センターで行われました。その感想と講評をおこないます。

はじめに3月11日におきた東日本大震災とそれに続く原発災害で被災された方に心よりお見舞い申し上げます。この木工工作コンクールを楽しみにしていた子ども達の中にも、被災したり、ふるさとを離れて避難している子もいると思います。この災害を乗り越えて、近いうちに、また元気な笑顔を見ることができればたいへんうれしいと思います。

今年は震災の影響から出品点数が少ない年になりましたが、一方で作品から感じられる力強さは例年とそれほど変わらないことに、勇気付けられる思いがしました。

第1部の最優秀賞に選ばれた小松渚紗君の〈大むかしの海〉は、木肌の持ち味を作品全体に活かした作品です。アンモナイトの大きな塊と触覚などの細かな造形が対比され作品が生き生きと感じられました。アンモナイトのまがったかたちは難しかったと思いますが、力強さと繊細さと風合いを持っている点で最優秀賞にふさわしい作品と感じました。

第2部の最優秀賞に選ばれた鈴木嘉栄人君の〈復興！！アクアマリンふくしま〉は、建物の特徴であるガラス板を三角に組み合わせた通路を再現した作品です。人や海の生き物をとても丁寧に作っているところが共感を持ってましたし、何より震災からの復興という願いが伝わってくる作品でした。

続いて優秀賞に選ばれた各作品について講評します。

新妻広翔君の〈鳥たちが集うぼくの家〉は、マツボックリを鳥の羽毛に見立て、建物と池に集う鳥たちの情景を表した作品です。全体に表し方の工夫がたくさんある作品で楽しさが伝わる作品です。鳥の観察から生まれる表し方の工夫があると、もっと良くなったと思いますが、それを補う楽しさがありました。

斎藤謙太君の〈トリケラトプス〉は流木を胴体に見立て組み合わせた作品です。流木の風合いが恐竜の肌合いを想像させる作品になっていました。いろいろな部分に使う流木選びに工夫が感じられました。

池田萌花さんの〈海を泳ぐいるか〉は木口切りの端材をバランス良くつなぎ合わせイルカを作った作品で、丁寧な仕上がりに好感を持ってました。水しぶきの工夫も良かったと思います。

白濱光君の〈学習ザメ〉は短くなった鉛筆でサメが海からはねる様子を表した作品です。尖った鉛筆を、水しぶきとサメの肌に見立てたところに新鮮さがあり、好感

が持てました。

紺野かすみさんの〈小とりのすナンバー 1〉は、鳥の巣箱を木の皮と枝やマツボックリで覆った作品です。自然の風合いが心地よばかりではなく、リズムやバランスまで考えられ、物語が生まれそうな感じも伝わってきました。

池田彩那さんの〈おおかみ〉はオオカミの頭部を木で大まかに作り、そこにカンナクズを体毛に見立てて貼付けた作品です。根気のいる作業だったと思いますが、仕上がりが丁寧で美しい作品になっていました。

大和田晨雅君と大和田星恋さんの〈ティラノザウルス〉は骨組みにおがくずを盛り上げた作品です。おがくずの風合いが、恐竜の肌合いを想像させる作品になっていました。また牙や爪にもこだわっているところが評価につながりました。

三瓶未久さんの〈親子の絆〉はラッコの親子と海面、海中の様子を表した作品です。ラッコの体毛や持っている貝に工夫があり、何より2重構造の海面と海中の様子が新鮮です。親子の絆の大切さを考えるという震災に関連したテーマも考えさせられました。

桑折拓斗君の〈シーラカンス〉はつるを編んでシーラカンスを表した作品です。つるの編み方にうまさすぎる感じを受けましたが、木の持ち味や堂々とした風格が評価されたと思います。

桑折隼人君の〈フタバズキリュウ〉もつるを編んだ作品です。やはり木の持ち味と工作技術の点が評価されたと思います。

岡部泰陽君の〈ツリーハウス〉はいろいろな木の素材を使ってツリーハウスの楽しそうな情景を表した作品です。いろいろなところに工夫があり、工作技術もしっかりした作品になっていました。

近年、大きく迫力があって丁寧な技術を持った作品が増えてきているのはとてもうれしいことです。一方で、本当に子どもたちが考えたのかどうか、主体的に作ったのかどうか判断に苦しむ作品も多くなっているようにも思います。木の文化が少しずつ失われてきている状況の中で、親と子どもが語り合って一緒に作ることの大切さや木工工作の技術や素晴らしさを伝えることはとても大切なことです。

しかし一方で、評価の観点の「子どもの頭で考え、子どもの手で作ったもの」という趣旨の大切さをもう一度考えることも必要かもしれません。子どもたちが自分の頭や身体を使って作品と悪戦苦闘する中で培われる気付きや工夫する力こそ、その子にとっての本当の力につながります。大人たちが持つ木に対するイメージや技術は、ある意味で一面的なものです。子どもたちが初めて木と向き合っところから汲み取る情報は膨大なものがあるはずで、大人である私たちとまったく異なる木との出会いさえあると思います。そしてそれこそが子どもにとっての実感となり、身の回りの世界とつきあっていく基礎となっていきます。子どもたちの主体的な取組が感じられる作品がさらに増えてほしいと思います。

以上

☆☆☆第36回福島県児童・生徒木工工作コンクール入賞作品☆☆☆

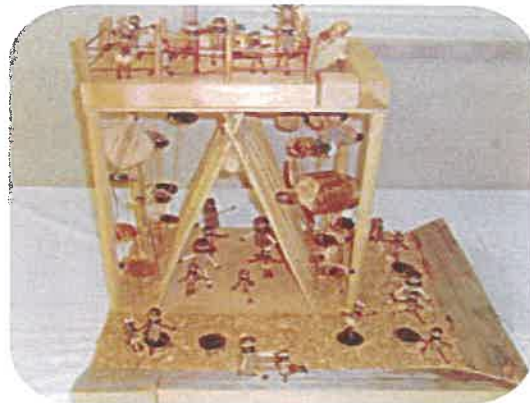
(敬称略)

最優秀賞

福島県知事賞



「大むかしの海」  
いわき市立平第五小学校  
2年 小松 渚 紗



「復興!!アクアマリンふくしま」  
いわき市立小名浜東小学校  
5年 鈴木 嘉英人

優秀賞

福島県教育委員会教育長賞

関東森林管理局長賞



「鳥たちが集うぼくの家」  
いわき市立平第五小学校  
4年 新妻 広 翔



「トリケラトプス」  
いわき市立中央台東小学校  
5年 斎藤 謙 太



「海を泳ぐいるか」  
いわき市立小名浜東小学校  
4年 池田 萌 花

福島民報社長賞

(財)県林業会館理事長賞

福島県木連会長賞



「学習ザメ」  
福島市立瀬上小学校  
5年 白 濱 光



「小とりのすナンバー1」  
福島市立野田小学校  
2年 紺野 かすみ



「おおかみ」  
いわき市立小名浜東小学校  
4年 池田 彩 那

**NHK福島放送局長賞**



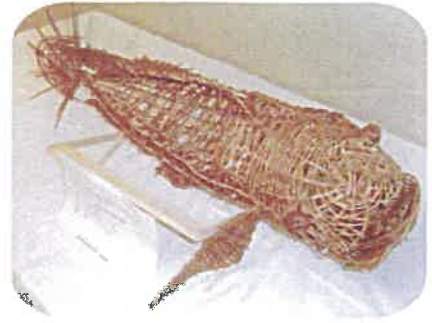
「 ティラノサウルス 」  
いわき市立湯本小学校  
6年 大和田 晟 雅  
3年 大和田 星 恋

**ラジオ福島社長賞**



「 親子の絆 」  
いわき市立小名浜西小学校  
6年 三 瓶 未 久

**福島テレビ社長賞**



「 シーラカンス 」  
福島市立野田小学校  
5年 桑 折 拓 斗

**福島県木材青年協会賞**



「 フタバスズキリュウ 」  
福島市立野田小学校  
3年 桑 折 隼 斗



「 ツリーハウス 」  
いわき市立泉北小学校  
6年 岡 部 泰 陽

